



**岐阜支部
(岐阜県遊技業協同組合)
「市立高校に対するオンライン
授業設備整備(プロジェクター・
スクリーンの寄贈)」事業**



岐阜支部
支部長
清水達浩さん

選考理由

コロナ禍の中、「リモートによる学習が出来る環境が整っていなかった市立高校の生徒に対して、他の私立・公立高校の生徒と同様に、安全安心にして授業が受けられるようにと、リモート環境を整備したこと」が事業内容であるが、授業環境の格差は正に着目し、教育関係者に直接語りかけながらの共同作業は、生徒たちから伝えられた感謝の意もあり、地元教育界に与えたインパクトは大きい。

地域貢献と併せ、青少年健全育成支援の観点からも高く評価したい。

社会貢献活動審査委員会
委員
松尾守人氏



**地元高校へのオンライン環境
の整備を通し
責任ある社会の一員としての
責務を果たす**

**新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、
学習環境として必須なオンライン環境**

2020年以来繰り返す新型コロナウイルスの感染拡大は、企業活動のみならず、社会生活のあらゆる局面に多大なる影響を及ぼしている。その一つが教育現場への影響である。2020年春には、当時の安倍晋三首相が全国の小中学校と高校、特別支援学校に臨時休校を要請し、3月2日から春休みの期間で実施を求めた(ただし、働きながら子育てする保護者らへの影響を避けるため、幼稚園や保育所、学童保育は対象外)。

それ以降、学校や家庭では様々な問題が生じたり、新たな試みが模索されたりしたが、学習の遅れを取り戻すため、ICT 端末等を活用したオンラインによる学習が積極的に進められるようになった。文部科学省の指針でも、「ICT 端末に学習課題等を配信することで自宅学習を促進したり、同時双方向型のウェブ会議システムを活用して、教師と自宅等をつないだ学習指導等を行ったりするなど、登校できなくても学校と自宅等をつなぐ手段を確保し、児童生徒の住んでいる地域によって差が生じることがないように」することが重要だとされている。

岐阜県遊技業協同組合岐阜支部では、責任ある社会の一員として地域との絆を大切にしたい社会貢献活動に取り組み、これまでも防犯カメラや高規格消防車の寄付、地域活性化イベントの支援、伝統産業である和傘職人の後継者育成支援などを行ってきたが、昨年、コロナ禍の中でオンライン授業を受ける環境が整備されていなかった岐阜市の市立岐阜商業高校に対し、他の公立高校、私立高校

と同様にオンライン授業が受けられるよう、プロジェクター及びスクリーンのセットを1年生4クラス分(4セット)寄贈するとともに、設置にかかわる工事費を負担する事業を実施した。

**オンライン授業の環境整備により、
「安心して授業が受けられる」と感謝**

この事業は、コロナ禍により学校生活に不安を抱いている青少年を支援しようという発想のもとに行われたもので、同支部の支部長自らが「新型コロナウイルス感染症拡大により、部活動の大会や行事などの活動が中止や延期になったなかで、生徒さんたちのために授業や行事等で何かお役に立てることはないか」と、教育関係者や生徒自身の生の声を聞きながら実施した。

2021年4月14日に岐阜支部長と岐遊協専務理事が同校を訪れて贈呈式が行われたが、生徒からは「安心して授業が受けられる」などの感謝の言葉が寄せられるとともに、学校から感謝状が贈呈された。リモートでの授業が増えていくなか、その環境が整っていなかった学校に対してリモート授業を受けられる環境を整備したことは、教育の公平性という観点からも高く評価される。学校関係者や教育関係者、またコロナ対策で財政的に厳しい自治体からも感謝の言葉が寄せられているというが、同支部ではコロナ禍の中で青少年育成に関わる効果的かつ必要な社会貢献活動になったのではないかと、事業の手応えについて話している。



オンライン授業の環境整備事業に対し、市立岐阜商業高校から感謝状を贈られた



教室に設置されたプロジェクターおよびスクリーンのセット